

「体調が悪いので授業が出席しにくいです」は なぜ間違いなのか？

鈴木 基 伸

要 旨

本稿では、「にくい」文の誤用例をいくつか取り上げ、なぜそれらが不自然であると解釈されるのか、またなぜ学習者はそのような「にくい」文を作成するに至ったのか、という点について考察する。さらに、「にくい」文がどのような意味を示しているのか、どのように教えられているのか、という点に焦点を当て、日本語学的・日本語教育学的視点から分析を行う。それらを踏まえたうえで、「にくい」文の意味機能を説明する際には、森田（1977）による「スムーズさ」という概念導入の必要性を主張する。単なる「難しさ」や「困難さ」という概念だけではなく、「スムーズさ」という概念を導入し、「にくい」が「スムーズに動作を行うことが難しい」ことを表すとする事で、これまでの用法説明上の問題点を解決することができ、また日本語学習者による「にくい」文の誤用を減らすことができる可能性があることを述べる。

キーワード：難易文、「にくい」文、誤用分析、日本語教育

1. はじめに

日本語学習者が誤用¹⁾を頻繁に産出する文型として「～が（を）Vにくい」がある（以下、「にくい」文）。筆者はかつて以下のようなメールを学習者から受け取ったことがある²⁾。

1) 誤用にも様々な種類があるが、本稿では、非文法的ではないものの、文脈上適切性に欠けるものを誤用として捉える。

2) 本稿で紹介するメール文は、すべて本人からの使用許可を得たうえで掲載している。

(1) こんにちは。体調が悪くなって、本日の面接が出席しにくいです。

(中国・女性)

この女性は筆者が担当するゼミナールを履修する学生であり、この文面にある「面接」は、当日行われる学内行事のことを指す。そのうえで、このような「にくい」文は、非文法的とはいえないが、語用論的にはやや適切性に欠ける。なぜなら、「にくい」は動作遂行上の困難さや難しさを表すが、不可能性までは表さない。むしろ頑張れば出席できるという解釈が成り立つため、結果的に「頑張れば行けるが頑張ってまでは行きたくない」という解釈を読み手に与えてしまうからである。したがってこのような場面で「にくい」文をつかうべきではない。

しかしながらこの学習者が(1)で「にくい」文を使用した理由も理解できる。「体調が悪い」→「出席するのが難しい」→「難しい=にくい」→「出席しにくい」という具合に考えたのであろう。至極まっとうな論理展開であるといえるが、「難しい」をそのまま「にくい」に置き換えただけでは不十分な場合があることが、「にくい」文の難しいところだといえる。むしろこの場合は「にくい」ではなく「難しい」を使用した方が容認度は高い。

(2) 本日の面接に出席するのが難しいです。

本稿では、このような学習者による「にくい」文の誤用例を取り上げ、それらがなぜ認められないのか。またなぜそのような誤用を産出してしまうのか、という点について考察を行う。誤用産出のメカニズムとしては、上述のような「にくい」=「難しい」という単純化によるものであると考えられるが、そもそもなぜそのような単純化が生じるのか、という点についても調査したい。具体的には、日本語教育に使用される教科書、または文法説明書をいくつか取り上げ、そこで「にくい」の機能がどのように記述されているのかを調査する。また、「にくい」の意味についても、「難しい」だけではカバーしきれないものの中にはどのような意味機能があるのかという点についても、『日本国語大辞典』の記述や先行研究をベースに考察する。

「にくい」文誤用産出の原因、また誤用とされる「にくい」文がなぜ認められないのかという点についての分析・考察を通して、日本語教育において、「にくい」文を文型項目として扱う際の注意点について提案を行うことが本稿の最終的な目的である。

「体調が悪いので授業が出席しにくいです」はなぜ間違いなのか？

2. 誤用例の紹介と分析

本節では実際の誤用例を観察し、学習者がなぜそのような「にくい」文を使用するに至ったのか、またなぜ適切性に欠けるのかについて考察を行う。

2.1. 誤用例：「出席しにくいです」

まずは（１）の文を産出した学習者（中国・女性）による同様のメール文における誤用例を提示する。

（３） すいません、生理痛とてもキツイです。今日の授業を出席しにくいです。

（４） こんにちは。先週の金曜日から急性胃腸炎になって、また完全に治りませんので、授業の出席にくいです。

（１）の例と合わせて見ると、この学習者は「欠席したい」という発話内行為を「出席しにくい」という発話行為によって読み手に伝えようとするのが慣習化しているようだ。すでに述べたように、「にくい」を使用したのは、「にくい」によって「出席する」ことの困難さを伝えたかったからであろう。この学習者の誤用例を見て興味深いのは、いずれも「出席しにくい」という「出席する＋にくい」から生じた例であるが、全て他と異なる構文形態をとっている。加藤（2008）で述べられているように、「にくい」文では補文におけるヲ格や二格が昇格し、ガ格となる。またガ格に昇格せず斜格が残存する場合もあるが、それは文脈の支えがないと不自然さを伴うことが多い。

（５） 本を読む。

（６） 本が読みにくい。【昇格】

（７） #本を読みにくい。【残存】（以上、加藤 2008：134）

このように、「にくい」文の構文形式として、斜格昇格型と斜格残存型がある。（１）は「面接が出席しにくい」とあるので、斜格昇格のパターンをとっている。一方（３）では「授業を出席しにくい」とあるため、斜格残存のパターンのようであるが、（３）の補文は「授業に出席する」であるから、斜格残存型であれば、「授業に出席しにくい」となるはずである。これはおそらく、この発話者³⁾が「にくい」文において（７）の

3) 本稿では誤用の例として、メールや課題における文面上の「にくい」文のみを取り上げるため、発話行為は行われていないが、便宜上誤用を産出した学習者のことを「発話者」と称する。

ようなヲ格残存の例を経験上見聞きしたことがあるため、補文では二格なのだが、ヲ格を使用してしまっていると考えられる。

(4) ではまた(1)(3)とは異なる構文形式をとっており、「授業の出席にくいです」となっている。これは「授業の」とあることから、「授業の出席」という名詞に「にくい」がついた形だと考えられる。構造としては以下のようになる。

(8) [授業の出席] [[にくい] [です]]

これは動詞に対して「にくい」が付けられることから、名詞に対しても「にくい」が付けられるとした過剰般化だと考えられる。また、これは「にくい」ではなく「やすい」の例であるが、「やすい」を独立させた一つの形容詞として用いた誤用が見られる。以下は、日本語を作文する課題の中で見られた誤用例である。

(9) ゲームが今までのような段階に発展することは易いではない。(中国・男性)

これは「易い」が容易さを表す形容詞として捉えられた結果用いられている例であるが、現代日本語文法において「易い」が単独で用いられることはなく、「た易い」などとしなければ誤用とみなされる。「～がにくいです」のように、困難さを表す意味で「にくい」が用いられている例に、筆者自身が遭遇したことはないため「にくい」における同様の誤用はほほならないようであるが、「やすい」においては(9)のように単独で容易さを表すのではないか、という誤った文法的解釈をしている学習者が少なからずいる可能性がある。もしそのような誤ったルールを(4)の発話者が持っていたとしたら、「やすい」の独立性を「にくい」にも当てはめ、「動作名詞+にくい」という構文を作り出してしまった可能性は否定できないであろう。

以上のことから、「にくい」文は学習者の中で過剰般化され、現代日本語文法論の範疇に当てはまらない形態をとることがわかる。これらの例が容認されない理由については、すでに述べたように語用論的なアプローチから説明が可能である。また(3)(4)については、補文にはないヲ格が使われている点、「名詞+ニクイ」という存在しない構文形態を取っているという点から、文法的に説明が可能となる。

2.2. 誤用例：「聞きにくい」

次に、筆者が担当する「キャリアデザイン⁴⁾」という授業において、「人と話して「陰悪な雰囲気」になったこと」というテーマで文章を作成してもらった際に生じた誤用例について紹介する。

「体調が悪いので授業が出席しにくいです」はなぜ間違いなのか？

- (10) 前、日本語学校の学生の時、私はコンビニでアルバイトをしたことがあります。ファミリーマートの仕事でした。最初、仕事がまだ慣れてなくて、色々なことをわからなかった。4回目の研修の時、あるお客様のが店に買い物に来ました。あのお客様が60代らしい、話し方がちょっと聞きにくかった。

(ベトナム・女性)

ここで発話者が伝えたい内容は、客の声が何等かの理由で（早口、声が小さいなど）聞き取ることが難しかったということであろう。そうであるとすればこの場合、「聞き取りにくかった」ぐらいの方が適切だといえる。

(10) において「聞きにくかった」というように「にくい」文を使ったのは、(1)(3)(4)の例と同様であろう。「(人の声を)聞く」ことが難しいわけであるから、「難しい=にくい」という方程式から、「聞きにくい」という文の産出に至ったのだと考えられる。英語であれば“hard to listen to”と翻訳されるため、「聞きにくい」という言い方がおかしくはないという判断を学習者がしたとしても不思議ではないし、たとえ学習者に間違いであることを指摘したとしても、理解できないであろう。ではなぜ「聞きにくい」は誤用と判断されるのであろうか。以下に実際に「聞きにくい」が使用されている例を提示する⁵⁾。

- (11) 尾形は、真っ暗な窓の外に目を向け、しばらく口を閉じた。それから、聞きにくい質問をぶつける。「提督は、なぜハイドリヒのような人物と、親しくしておられるのですか。 (BCCWJ、LBr9_00221、『燃える蜃気楼』)
- (12) ドコモの900を使っていますが充電しながら（コンセント使用の物）通話してもちゃんと会話が聞こえるものですか？私の携帯は充電すると雑音が入って相手から聞きにくい！と言われます。 (BCCWJ、OC02_04358、Yahoo! 知恵袋)
- (13) 中途失聴者や難聴者とその家族を対象に、手話講習会を開催します。話はできるけれど「人の話がちょっと聞きにくい」「聞こえなくなった」という方は、『手話』を覚えてみませんか。 (BCCWJ、OP27_00002、広報いちかわ)

これを見ると、「聞きにくい」が使われる状況には三つのパターンがある。一つ目は(11)のように、相手に何かを聞く（質問）する際に、その内容がセンシティブな

4) 大手前大学における必修の初年次教育プログラム。一年生春学期に「キャリアデザインⅠ」、一年生秋学期に「キャリアデザインⅡ」を履修する。

5) 本稿では実例を採取する際、「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」を使用した。また例文の下線は筆者による。

もので、聞くことが心理的にはばかられるような場合である。二つ目は、(12) のように、電話やスピーカーなどの音響製品の不具合によって「聞くことが難しい」と感じられるような場合。そして三つ目は、(13) のように、「聞く」能力そのものが低下したことによって「聞く」ことが困難になる場合である。これらを、鈴木 (2015)⁶⁾ の分類に当てはめると、(11) は [内的要因：心理的抵抗感 (－恥ずかしさ)]、(12) は [外的要因：使用する道具の不都合]、(13) は [外的要因：動作遂行能力の欠如] となる。

(10) における「聞きにくい」も「客の話し方」という外的要因によるものであるためその点では (12) (13) と同様だといえる。しかしながら (12) (13) における外的要因は、使用する道具や動作主自身に求められるものであり、(10) における要因とは異なる。なぜなら、(10) における「客の話し方」というのは聞く対象そのものであり、道具や発話者自身に困難さを引き起こす要因があるわけではないからだ。(10) における「にくい」文を鈴木 (2015) の分類にあてはめると、[外的要因：対象物の不具合] になる。ここに当てはまる動詞には「食べる」「飲む」「見る」「読む」「わかる」などがあるが、「聞く」はなく、その代わりに「聞き取る」がある⁷⁾。

以上のことから、(10) における「にくい」文は、「聞きにくい」がカバーする困難さの要因とは異なる、[外的要因：対象物の不具合] という要因によって作られていることから適切性が劣っていると判断される。

2.3. 誤用例：「分かりにくい」

次は「分かりにくい」の誤用例を取り上げる。以下に示すものは、筆者が担当する「日本語文法Ⅵ」という授業において課題として出された文章である。少々長いが、文脈を理解する必要があることから全文を提示する。

- (14) コロナの間に、私は政府部門の出した提案を厳格に守って、家で自粛しますが、どうしても外出しなければならない状況があります。このような状況下で、私も防護措置を厳格に行います。いつもマスクを着用して、バーコードを掃除して身分証番号などを登録します。しかし、いつも一部の人が、このような危険

6) 鈴木 (2015) は、「にくい」と「づらい」が表す困難さの要因を①外的要因：動作遂行能力の欠如、②外的要因：使用する道具の不具合、③外的要因：環境的要因、④外的要因：対象物の不具合、⑤内的要因：身体的痛み、⑥内的要因：心理的抵抗感 (+ 恥ずかしさ)、⑦内的要因：心理的抵抗感 (－恥ずかしさ) の7つに分類した。

7) 困難さを引き起こす要因の違いによって「聞きにくい」と「聞き取りにくい」が区別されているわけであり、どのような動機付けによってそのような使い分けがなされているのかについてはさらに考察を行う必要があるが、それについては別稿に譲る。

「体調が悪いので授業が出席しにくいです」はなぜ間違いなのか？

な時にマスクを着用したり、スタッフの仕事に協力したりするのを嫌がっています。初めて地下鉄の入り口でマスクをしたくない男性が地下鉄に乗り、スタッフに止められました。コミュニケーションの後、男性はマスクをして、最後に仕事に協力しました。

もう一回は近日中です。十月ごろ、病院に家族の見舞いに行きました。上海では最近また例が増えたので、検査は厳しくなりました。中年の女性がマスクをしたくないので、直接病院に入りたいです。病院の警備員に止められました。双方が意地を張って、最後に女性が警察に電話して終わりました。後のことの発展はよく分かりませんが、このような行為が後を絶たないので、分かりにくいです。

この文を書いた学習者に実際に聞いたところ、最後にある「分かりにくい」は、マスクの着用を拒否し周りに迷惑をかける人がたくさんいて、それらの人々がなぜそのようなことをするのかを理解できない、という意味で書いたとのことであった。この場合、本動詞には「理解する」を使い、「理解しにくい」「理解しがたい」などとした方がより容認度は上がる。学習者が「分かりにくい」とした理由については、これまでと同様であろう。「分かる」ということは「理解すること」に近く、「分かることが難しい」のであれば「分かりにくい」が成立するだろう、ということである。この思考プロセスもこれまでと同様、不自然さのないものであり、理論的には間違っていない。しかしながら「分かりにくい」という表現は不自然だといわざるをえない。

ではなぜ「分かりにくい」がこの文脈で認められないのだろうか。前小節同様、BCCWJより例文を採取し、「分かりにくい」が表示する意味について考察する。

- (15) それぞれに即して読めるというのが『正法眼蔵』というものの特色です。ただ、偉いお坊さんが解説すると、解説するために出てくる話がまた仏教の中の話で、われわれ一般人には分かりにくい。

(BCCWJ、LBp1_00010、『道元いまを生きる極意』)

- (16) 地デジ対応テレビは各社の品揃えも豊富になり、予算や用途に応じて選べるようになりました。便利な機能が増えた一方で、高齢者にとっては操作が分かりにくいと感じる人もいます。(BCCWJ、OP06_00001、広報遠野)

- (17) 芸術に関する好みは所詮「主観的」なものです。どうしても柴辻さんの趣味に合わない作家があっても、仕方ないですよ。でもよくしたもので、そういう作家が好きな人も大勢おられる。寿司屋が軒を列ねていて、どの店も適当に繁盛しているのと同じです。だからカントは、「趣味」に関して、「主観的普遍妥当

性」などと分かりにくいことをいったのです。

(BCCWJ、PB57_00182、『哲学する芸術』)

このように、「分かりにくい」が使われるのは、その対象そのものに問題があり、それが起因となって「分かることの難しさ」が引き起こされている場合である。鈴木(2015)の分類に従えば、[外的要因：対象物の不具合]にあたる。したがって、「分かる」対象物には複雑さや煩雑さがなければならない。ところが、(14)における「分かりにくい」の対象となっているのは、マスクを拒否する等の迷惑な行為である。この行為そのものに複雑さや煩雑さはない。この行為を「分かる」上で立ちはだかるのはいわば価値観の違いである。そのような場合「分かりにくい」を使用すると不自然になってしまうのである。

3. 「にくい」の意味について (日本語学的記述)

前節では、学習者による誤用例を取り上げ、どのような思考プロセスによるものなのか、なぜそれらの「にくい」文が認められないのか、ということについて分析を行った。本節では、「にくい」にはそもそもどのような意味が備わっているのか、ということについて、先行研究や辞書の記述をもとに考察を行う。

すでにこれまで見てきたように、「難しい」や「困難だ」を単純に「にくい」に置き換えただけでは適切性が劣る場合が多くみられる。ゆえに「にくい」が動作遂行上の難しさだけを表しているわけではないことは明らかである。森田(1977)は「にくい」の意味について以下のように記述している。

- (18) 動詞に付いて、どの作用・動作・行為がスムーズに行われることが難しい状態である意味を添える。 (森田 1977 : 366)

このように、森田(1977)は「にくい」の意味を表す際に「スムーズさ」という概念を利用している。

次に、『日本国語大辞典』における記述を見てみよう。辞書の記述を見てみよう。

- (19) 形容詞「にくい」から生じた用法で、動詞の連用形に付き、その動作に抵抗を感じるさまを表わす。たやすくない。…しづらい。…がたい。「しにくい」「できにくい」「読みにくい」など。

「体調が悪いので授業が出席しにくいです」はなぜ間違いなのか？

『日本国語大辞典』では「難しい⁸⁾」や「困難」という記述はなく、「抵抗を感じる」という表現がなされている。

このように、先行研究や辞書の記述を見ると、「にくい」の意味記述は単純な「難しさ」や「困難さ」のみでは説明がつかない形式であることがわかる。ゆえに、「にくい」文を日本語教育において文法項目として扱う際にはその点に注意して指導する必要があると考えられるが、実際にはどうなのであろうか。次節では、日本語のテキストや文法書における「にくい」の取り扱い方について紹介する。

4. 「にくい」はどのように教えられているか（日本語教育学的記述）

まずは初級のテキストとして代表的な『みんなの日本語』（以下、『みんな日』）を取り上げる。『みんな日』では、初級Ⅱ本冊第44課において「やすい」と共に「にくい」が文法項目として取り上げられている。以下に記載されている例を示す。

- (20) 東京はすみにくいです。
- (21) この靴は歩きにくいです。
- (22) このコップはわれにくいです。
- (23) 厚いタオルはかわきにくいです。 (以上、『みんなの日本語』：156)

テキストの記述だけではどのように教えられているのかがはっきりしないため、『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 教え方の手引き』（以下、『手引き』）においてどのような解説がなされているのかを見てみよう。「にくい」の意味については以下のように記述されている。

8) 「にくい」の意味を説明する際に使われる「難しい」の意味についても、実は考察する必要がある。「難しい」は漢語における「困難」や英語の difficult と同義とされるが、『日本国語大辞典』の記述をみると必ずしもそうではないことがわかる。『日本国語大辞典』における「むずかしい」の記述を一部以下に示す。

- (1) 機嫌が悪い。不快な表情や態度をあらわに見せている。
- (2) 気に入らず不愉快である。気持が晴れないでうっとうしい。むしゃくしゃする。
- (3) 正体の知れないもの、なじみのないものに対して、気味が悪い。不安で恐ろしい。
- (4) 風情がなくてむさくるしい。よごれてきたない。
- (5) ごたごたとして煩わしい。うるさい。面倒だ。

語源は「機嫌が悪くなる」「腹を立てる」を意味する「むつかる」である。この記述から、「難しい」を「困難さ」と同義にすることがそもそもの間違いであることがわかる。したがって「にくい」を分析するうえで、「にくい」の機能を表し、メタ言語的に用いられる「難しい」の意味にも目を向ける必要があるが、紙幅の関係もあるため本稿では立ち入らないことにする。

- (24) 「やすい／にくいです」が、意志動詞に接続する場合はそれぞれ「そうすることが容易である」「そうすることが難しい」という意味を表す。「やすい／にくいです」が無意志動詞に接続する場合は、それぞれ「そうなる傾向が強い、そうなりがちだ」「そうなる傾向が弱い、なかなかそのようにならない」という意味を表す。 (『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 教え方の手引き』: 160-161)

また、導入、展開、留意点について書かれていることを一部引用して表1に示す。

(24)の説明を見ると、「にくい」の説明として「難しい」という言葉が使用されており、森田(1977)や『日本国語大辞典』に見られるような「スムーズさ」や「動作に抵抗を感じる」という表記はない。また導入・展開、留意点を見ると、どういった難しさを表すか、どのような要因によって困難さが引き起こされているか、ということよりも、意志動詞と無意志動詞の場合で意味が異なるという点に焦点が当てられているようである。

初級向けのテキストにおいて、「にくい」(及び「やすい」)が扱われているのは、『みんな日』だけである。その他初級向けの『日本語初級1・2 大地』『初級日本語げんきⅠ・Ⅱ』『できる日本語』『つなぐ日本語初級1・2』においては文法項目として扱われていない。また『みんな日』は中級レベルのものもあるが、初級で扱われているか

表1. 「やすい／にくい」の導入・展開・留意点

導 入	<p>～やすい／にくいです (意志動詞)</p> <p>目で見て明らかに使いやすい／にくいものを準備し、見せて導入する。</p> <p>導入例1 長い鉛筆と短い鉛筆を準備する。長い鉛筆で書いて見せて「書きやすいです」、短い鉛筆で書くのを見せて、「書きにくいです」。</p> <p>導入例2 大きいパソコンと小さいパソコンのイラストを見せて</p> <p>T: このパソコンはキーボードが大きくて、使いやすいです。 このパソコンはキーボードが小さくて、使いやすいです。</p>
展 開	<p>～やすい／にくいです (無意志動詞)</p> <p>目で見て明らかにわかるものを準備し、見せて導入する。</p> <p>導入例 紙袋(薄いものと丈夫なもの)と、中に入れるものを準備する。</p> <p>T: 紙の袋です。りんごを入れます。 (薄い袋は破れ、丈夫な方は破れないのを見せて) この紙の袋は破れやすいです。役に立ちません。 この紙の袋は破れにくいです。丈夫です。</p> <p>「やすい／にくいです」の前に来る動詞はます形で、無意志動詞であることを確認する。</p>
留意点	<p>1) 「～やすい／にくいです」は、い形容詞と同じ活用になり、否定は「～やすすくない／にくくない」となる。</p> <p>2) 意志動詞の場合は「～やすいです」はよい事象、「～にくいです」は悪い事象を表すが、無意志動詞の場合は必ずしも「～やすいです」がいいこと、「～にくいです」はよくないことであるとは限らないので、注意が必要である。</p>

(『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 教え方の手引き』: 161-162)

「体調が悪いので授業が出席しにくいです」はなぜ間違いなのか？

らか、『みんなの日本語中級Ⅰ・Ⅱ 本冊』においても「にくい」は文法項目として取り上げられていない。

次に、『くらべてわかる中級日本語表現文型ドリル』（以下、『くらべて』）における記述を引用する。『くらべて』では、「にくい」を「がたい」「づらい」という類義表現と比較して、その機能を説明しようとしているが、その中で、「にくい」の意味に関する記述をまとめて以下に示す。

(25)・「Aにくい」は、「Aしようと思えばできる・努力をしたらできるが、Aするのが難しい」というときに使う。

○この漢字は複雑すぎるから、電話では説明しにくい。

・「Aにくい」の反対は「Aやすい」

・「Aにくい」には、「Aするのが快適ではない」という意味もある。

○この椅子は硬くて座りにくい。

・「Aにくい」は「Aするのが物理的に（能力的・技術的に）難しい」という意味。また、その理由が対象物にある場合が多い。

○このハンバーガー、大きすぎて食べにくい。

・Aに無意志動詞が来る場合も使う。

○燃えにくい素材のカーテン

○アイスコーヒーに砂糖を入れても溶けにくい。

（『くらべてわかる中級日本語表現文型ドリル』：16-19）

『くらべる』は中級向けのテキストであるため、初級向けの『手引き』よりは詳しい記述がなされている。『手引き』のように、意志動詞・無意志動詞の違いにも焦点を当てているが、「にくい」そのものの意味記述として、「しようと思えばできる」「快適ではない」「物理的（能力的・技術的に）難しい」といった、ただ「難しい」という説明だけでは終わらず、一歩踏み込んだ解説がなされている。

5. 誤用産出の原因と解決策について

これまで、「にくい」文に関する学習者の誤用例を観察し、なぜ誤用が生じるのか、またなぜ容認されないのか、ということについて見てきた。誤用産出の原因としては、第1節で述べたように、「難しい=にくい」という単純化が学習者の中で行われているからだといえる。それは、第4節で見たように、日本語教育における「にくい」文の扱われ方からもそれがわかる。『みんな日』において「にくい」は「やすい」と共

に取り上げられているが、「難しい」と同様の意味を表すという記述に終わっている。意志動詞と無意志動詞の違いについては言及されているが、どのような難しさなのか、「～することが難しい」との違いは何なのかという説明はなされていない。また『みんな日』以外の初級向け教科書では文法項目として取り上げられてすらいない。『くらべる』のような中級向け文法説明書では「がたい」「づらい」との比較からより詳しい説明がなされているものの、『みんな日』ほど普及しているとはいいがたい。このような状況を見ると、日本語学習者が「にくい＝難しい」と単純に置き換えてしまうのも無理はないといえる。

しかし繰り返すが、「にくい」の意味は「難しい」で置き換えられるほど単純なものではない。第2節で見たように、語用論的な文脈を考慮に入れる必要があるし、また困難さを引き起こす要因によって使い分けがなされるから、それらも踏まえて使用しなければならない。一見簡単なようで、実は非常に複雑な使い分けが要求される文法形式だといえる。

ただ日本語の初級テキストにおいて取り扱いがなかったり、あったとしても「難しい」と同義であるという程度の説明に終わってしまっていたとしても、それはそれで仕方がないことだとも考えられる。なぜならば「にくい」を正しく使えるようになるには、接続する動詞によって、「にくい」文がどのような意味を表すのかを一つ一つ教える必要があるからだ。初級クラスでは教える文型項目がたくさんあるため、「にくい」文一つにそれだけの時間と労力をかけている余裕はないだろう。したがってそもそも「にくい」文（「やすい」文も含め）を取り扱わない、また取り扱ったとしても「難しい」と同義とし、動詞による使い分けは意志動詞と無意志動詞の違い程度に収めるという判断をしても仕方がないことだといえる。

しかしながら初級において「にくい」は「難しい」とほぼ同義とし、それ以降において文法項目として取り扱わないということであれば、「にくい」文の誤用例産出は今後も減ることはないであろう。そのためには、初級クラスで「にくい」（及び「やすい」）を取り上げる中で、担当教員により負担をかけない程度で、「にくい」の解釈規則に関する提示を学習者にすべきである。

本稿としては、森田（1977）が提示した「スムーズさ」という概念を採用したい。スムーズというカタカナ語であるから、日本語の文法項目を説明する上では敬遠されるかもしれないが、それに類する日本語が存在しないので仕方がない⁹⁾。「にくい」＝「スムーズに行うことが難しい」と説明することによって、これまでの「難しい」と

9) あえていうとすれば「円転性」と称することができるかもしれないが、漢語でありそもそもメジャーな用語とはいえないため、採用はすべきでないであろう。

「体調が悪いので授業が出席しにくいです」はなぜ間違いなのか？

いう概念だけでは説明できなかった、「にくい」文の意味的特徴を説明できるというメリットがある。例えば、『くらべて』でも指摘されているように、「にくい」によって表される意味の中には「しようと思えばできる」というものがある。「しようと思えばできる」ということは、「できないことはない」ということであり、結果として不可能性までは含意しない、ということになる。実際「にくい」は能力的・物理的に不可能な事態に対しては使うことができない。そのような「にくいは不可能性まで表さない」という意味的特徴を、「スムーズさ」という概念を使用すれば説明が可能となる。なぜなら「スムーズにすることが難しい」からといって「できない」ということにはならないからだ。

また本稿の題目にもある「体調が悪いので授業が出席しにくいです。」という文の不自然さについても端的に説明できる。例えば「難しい」という概念だけでは、「授業に出席するのが難しい」という発話自体に問題はないため、なぜ間違いなのかが説明できないが、「授業にスムーズに出席することが難しい」とすれば、そもそもそれはどのような状況なのか、ということになり、そのような状況の設定自体に無理があるということで、「出席する」と「にくい」がそもそも相いれないものであるということが説明できる。

さらに、「スムーズさ」を物理的なものから心理的なものまで拡張すれば、『日本国語大辞典』の記述にあるような「抵抗を感じる」という解釈につなげることもできる。動作を遂行するうえで、心の中にあるひっかかり（スムーズさを阻害するもの）があれば、動作主はその行為自体に抵抗を感じるからである。物理的なスムーズさを阻害することが想定できないような動詞に関しては、「にくい」を接続させた場合心理的な抵抗感を表すようになるとすれば、「授業が出席しにくいです」はあくまで心理的なものであると解釈され、欠席の理由として書く文章としては不適切になると説明が可能になる。

6. まとめ

本稿では、「にくい」文の誤用例を取り上げ、なぜ不自然だと判断されるのか、またなぜそのような「にくい」文が産出されるのかということ、日本語学的、日本語教育学的視点から考察してきた。「にくい」が表しているのは純粋な「難しさ」や「困難さ」だけではないということ、日本語教育における「にくい」の説明は不十分である可能性があることを指摘したうえで、今後の誤用産出を妨げるためには、「スムーズさ」という概念を導入することが必要である、というのが本稿の主張である。

本研究では考察の対象を「にくい」文に限定したが、日本語の難易文というカテゴ

リーにおいては、「にくい」と反対の意味を表す「やすい」や、類義的に使用される「づらい」「がたい」についても研究対象の幅を広げるべきであろう。また今回提案した「スムーズさ」という概念がどの程度まで「にくい」の用法を説明するうえで有効なのかをより詳細に検証する必要があるが、それは今後の課題としたい。

参考文献

- 庵功雄ほか (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』松岡弘 (監修) スリーエーネットワーク.
- 井上和子 (1976) 『変形文法と日本語 (上)』大修館書店.
- 岡本牧子・氏原庸子 (2012) 『くらべてわかる中級日本語表現文型ドリル』Jリサーチ出版.
- 加藤重広 (2008) 「日本語における昇格と降格」『日本語受動構文の構造的意味と推意に関する語用論的原理の記述的研究』129-146.
- 加藤重広 (2013) 『日本語統語特性論』北海道大学出版会.
- 坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 (1999) 『初級日本語げんきⅠ』ジャパントタイムズ.
- 坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 (1999) 『初級日本語げんきⅡ』ジャパントタイムズ.
- 佐藤ちゑ子 (1988) 「難易文の派生について」『文経論叢 人文学科篇』9: 69-88.
- 嶋田和子 [監] (2011) 『できる日本語初級本冊』アルク.
- 嶋村誠 (1980) 「難易文管見」『神戸学院大学紀要』10: 101-118.
- 鈴木基伸 (2015) 「困難さを表す「にくい」と「づらい」はどのように使い分けられているか—アンケート結果の分析と考察—」『大手前大学論集』15: 95-118.
- スリーエーネットワーク (1998) 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』スリーエーネットワーク.
- スリーエーネットワーク (1998) 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』スリーエーネットワーク.
- スリーエーネットワーク (2001) 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 教え方の手引き』スリーエーネットワーク.
- 辻和子・小座間亜依・桂美穂 (2017) 『つなぐ日本語初級1』アスク.
- 辻和子・小座間亜依・桂美穂 (2017) 『つなぐ日本語初級2』アスク.
- 森田良行 (1977) 『基礎日本語—意味と使い方』角川書店.
- 山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子 (2008) 『日本語初級1 大地メインテキスト』スリーエーネットワーク.
- 山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子 (2009) 『日本語初級2 大地メインテキスト』スリーエーネットワーク.
- 渡邊績央 (2007) 「日本語の難易文」『東京大学言語学論集』26: 185-228.